

令和2年度地元産業界等との地域の課題解決に向けた連携事業

札幌国際大学	
(1) 連携している地元産業界等の組織名称	北海道瀬棚郡今金町
(2) 連携事業における地域の課題、その課題解決に向けて設定した目標	<p>連携協定を結ぶ今金町は、今金男爵等多くの農産物を生産し、美しい自然環境や、ピリカ遺跡等の歴史的に価値ある場所を数多く有している。人口は、平成31年3月末現在で5,228人であり、10年間で約900人余りが減少している。また、老年人口比率（高齢化率）も増加しており、平成27年には37.3%となり、北海道、全国を上回る水準である。更に、令和27年には50%を超えることも予測されており、人口減少と少子高齢化は不可避な課題となっている。</p> <p>また、令和2年に実施した町民対象の「まちづくりアンケート調査」によると、「地域医療」に対する不満が最も高く、次いで「商業振興」、「雇用対策」となっている。一方、町民が期待する政策については、「福祉、医療の充実」が最も高く、重点的に取り組を進めているところである。</p> <p>そこで、本事業では、スポーツや運動のプログラムを提供し、町民の健康増進・介護予防等に資することを目標とする。なお、年度初めに実施計画を今金町と協議し、年度末には、事業評価の協議と報告書の作成を行う。</p>
(3) 上記(2)の課題の解決に向けて実施する取組みの内容	<p>学生が主体となって町民対象の健康運動プログラムを企画・実施するため、以下の手順で取り組みを進めた。</p> <p>①町民の健康・運動に関する意識やニーズを把握するため、現地調査及び情報収集を行う予定だったが、コロナ禍で現地調査を断念し、今金町まちづくり推進課の職員3名が来学する出前型の研修において説明を受けることにより情報収集を行った。</p> <p>②対象別に健康運動プログラムを企画するとともに、展開方法について検討を行う予定だったが、コロナ禍のため変更を余儀なくされ、過疎集落に住む独居高齢者へ向けた健康増進のためのプログラムの開発として、「高齢者（過疎集落・独居）のための健康増進プロモーション映像（DVD）」の企画・作成を行った。</p> <p>③限られた時間の中で有意義な議論を重ねられるように、「転倒予防」「ひざ痛予防」「腰痛予防」「認知症予防」と4つのテーマをもとに4グループ（4名）に学生を分け、1グループずつソーシャルディスタンスを図ったり、オンライン会議も取り入れ、グループワークを進めた。</p> <p>④完成したDVDは、今金町における高齢者への健康増進の取り組みに活用して頂くため、今金町へ寄贈を行った。</p> <p>⑤分析等を踏まえ、評価と改善を行う。</p>

札幌国際大学短期大学部	
(1) 連携している地元産業界等の組織名称	札幌市清田区
(2) 連携事業における地域の課題、その課題解決に向けて設定した目標	<p>【地域の課題】地域資源や魅力を再発見し、それらを活用した地域活性化による「まちづくり・ひとづくり」を図る。</p> <p>【地域の課題解決に向けて設定した目標】コロナ禍のためイベント等が縮小されてはいるが、きよたまちづくり区民会議と協議し、「きよたミニマルシェ」の場を利用した食に関するアンケート調査、縮小版「きよフェス」、「きよたSTAY HOMEプロジェクト」応援活動等を通じて食、音楽のみならず清田区の魅力となる要素の再発見、ボランティア活動等を通じた新スタイルの「まちづくり・ひとづくり」への理解と提言を行う。</p>
(3) 上記(2)の課題の解決に向けて実施する取組みの内容	<p>コロナ禍のためイベントの実施が厳しい状況であり、当初計画していた食と音楽のイベントの断念を余儀なくされたが、きよたまちづくり区民会議と協議し、</p> <p>①学科公式SNSで、『きよたSTAY HOMEプロジェクト』応援を実施</p> <p>②食育チームで、清田区の Mascot「きよっち」と本学の Mascot「コクサイ君」が清田の野菜を使って、家庭での食育をPRする（いただきます、ごちそうさま、材料名を知るなどでも十分な食育活動になるのだということPRする）動画とレシピを作成し、学科公式SNS及びYouTubeに掲載した。</p> <p>これらを通じて地域資源の発見・活用を行い、新たなスタイルの「まちづくり・ひとづくり」に関する提言に繋げる。</p>